



好學愛知  
自律敬實  
自質剛健

# 雀鳥之言

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.htm>

## 7月の行事予定

7月

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	1・2年実力考查(1日目)
5	火	1・2年実力考查(2日目)
6	水	
7	木	
8	金	中掃除
9	土	1～3年進研記述
10	日	3年進研記述 第1回英検二次試験
11	月	学校安全の日
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	3年代ゼミ東大模試 教員採用試験
17	日	3年代ゼミ東大模試
18	月	海の日
19	火	全校朝会 3年三者面談開始
20	水	
21	木	夏季悠学講座開始(～8/2) 救命救急法講習会
22	金	
23	土	悠学講座② 大学生による学部学科紹介(1年)
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	夏季悠学講座終了(1・2年)
30	土	駿台東大京大, 代ゼミ九大模試
31	日	駿台東大京大, 代ゼミ九大模試

「震災の当日、学校に避難してきた女子生徒が机・椅子・毛布を借りて、薄暗い講堂の常夜灯のもとで必死に勉強していた。」これは、阪神淡路大震災で大きな被害を受けた長田地区にある高校での話である。セントラル試験直後大地震という大混乱の中、この生徒を始め多くの生徒が志望校合格を果たしたそうだ。強い思いを力に変えるという人の持つ底力を感じたと当時の先生方が志望校話である。それから十六年、東北地方を襲った大地震から三ヶ月が過ぎた。被災した高校生たちは徐々に高校生活を取り戻してきていたが、その中で、先生方が言われるのでは「授業命」。今、彼らの授業はとても質の高いものであると思う。学校があり、仲間がいて授業が受けられることが、感謝しながら必死に授業に臨んでいるはずである。また、君たちがそう思うように「人のために立つ大人になりたい」という思いの若者が増えてきており、これら日本の日本を支えていく世代に頼もしもあるを感じている。



前期クラスマッチ

神宮司直樹(21R)  
山口舞(28R)  
久松彩音(15R)

植之原佳代さん率いる平成22年度後期生徒会執行部から平成23年度前期生徒会に引き継がれた。紙面の都合により新会長・副会長のみ紹介する。

## 生徒会新執行部発足

学習に取り組んでほしい。自習室などお膳立てしてもらわないと出来ないようでは、幼いということだ。学校と自宅という日常の中で、今すべきことに淡々と取り組むことが一番である。こういう時代だからこそ君たちの未来は楽しみだと思つていて。今こそ「ひたすらに」毎日を過ごしてくれることを期待している。

6月8日(水)、本校文化館で中高連絡会が開かれた。この会は、中学校と本校の連携を深めることを目的に毎年実施されている。今年度も39の中学校から先生方が出席され、本校の学校紹介ビデオを視聴した後、校長挨拶、平成23年度の入学者選抜学力検査の概要、本校の学習・進路指導、生徒指導についての説明と続いた。その後、各中学校の先生方と本校職員との懇談の機会があり、中学校の先生方から卒業生の進路や在校生の近況について多くの質問が寄せられるとともに、在校生の中学時代の活動状況を伺い、同じ教育現場に身を置く立場として活発な意見交換が行われた。

出身中学校の先生方は、今も本校生徒を温かく見守つていらっしゃる。多くの方々が自分たちを応援し、支えてくれてゐるのだということを忘れずに毎日を過ごしてほしい。



中高連絡会



「高校生のための金曜特別講座」とは、東京大学教養学部が二〇〇二年から実施している高校生を対象とした公開講座である。

高校生の勉学意欲を高める一助になるようになると、教養学部の先生方が学問研究の面白さや重要さを分かりやすく解説している講座で、「これまでの講座の内容は、「東大授業ライブ熱血編・純情編」など出版もされている。金曜日十七時半～十九時に東京大学で行われているが、本校のように会場に直接行くことのできない学校のために、インターネット・テレビ電話システムにより講座を受講できるシステムがある。今年、本校がその一つに選ばれ受講ができることになった。

「筋ジストロフイーを治す」「映画の時間と空間をどう組織するか」「音楽を理解するコンピュータ」などテーマも様々。な分野にわたり、興味を引くものが多いい。これまでに五回実施できたが、特に一年生の参加が多く、熱心に受講している。(写真参照)

容の講座に興味があり参加した。とてもおもしろく勉強になつた（二年男子）」「とても楽しみにしていました。いろいろなモノの見方が変わつたと思う（二年男子）」  
参加した生徒たちは一生懸命に聴講しておらず、疑問に思つた点を質問し、直接講師の先生に答えてもらつた生徒もいる。また講義の内容だけでなく、全国で同時に受講している高校生が投げかける質問にもたいへん刺激を受けている。講座の案内はその都度クラスで配布し、掲示板や進路室前には案内のポスター・受講の様子（報告）など掲示しているので、ぜひ一度それらを見てほしい。そして参加してくれる生徒が増えることを期待している。

で、ぜひ一度それを見て参加してくれる生徒有待している。

これが「の諺」

内

す 電子。それは物質科学の主役で  
「遣唐使の航海」